

読書に障害のある人の自立生活を支える アシスティブテクノロジー

社会福祉法人 桜雲会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-14-102

助成事業の概要

視覚障害のある人や、ディスレクシア（読み書き障害）など学習障害のある人、また上肢障害のためページがめくりにくい人などいわゆる読書に障害のある人（プリントディスアビリティ）は、日常生活を送る上で様々な不便を抱えています。それは単に読書をする行為だけにとどまらず、役所への書類提出や郵便物の確認など、日常生活を送る上で必ず直面することばかりです。現代社会における ICT 技術の発展が、情報入手の容易化を実現し、人々の生活が豊かになる状況が広がっています。その反面、上記の理由から日常生活を送る上で不便を感じている人や使用方法がわからない人々にとっては、益々不便な状況に陥るケースが多く存在します。そこで、平成 27 年 11 月 1 日より 3 日間開催される視覚障害者の祭典「サイトワールド」において、IT 機器や用具を活用して自身の自立生活を支えるための講習会を実施します。講師・スタッフには、実際に情報通信機器や用具を応用し、自身が感じる不自由さをカバーしている視覚障害当事者や、視覚障害者用具・装置の開発をおこなっている専門家にご協力いただき、一人一人の自立生活をサポートする手段の情報共有をしていくことが目的です。

事業の成果

「サイトワールド 2015」11 月 1・2 日
場所：すみだ産業会館サンライズホール 9 階 会議室 4

①アシスティブテクノロジー（AT）講習会・講演会の開催

「サイトワールド 2015」内の企画展において、「読書に障害のある人の自立生活をささえるアシスティブテクノロジー（AT）講習」と題し、読書を中心に日常生活に不便を抱えている人に向けた支援の講習会「アシスティブテクノロジー」を体験できるコーナーを設置しました。さらに、実際に支援機器・用具を活用した実践形式の講演会を下記のテーマで開催しました。

1. パラメトロンコンピュータによる世界最初の自動点訳とロボットアームによる視覚障害者 3 次元触知
…長谷川 貞夫（ヘレン・ケラーシステムプロジェクト代表）、成松 一郎（有限会社 読書工房）
2. 視覚障害者のちょっと困ったなを解決するアイデア
…奈良 里沙・村上 卓也（視覚障害者ライフサポート機構 viwa）
3. 見えない・見えにくい人でも読めるんです！—私の読書術
…村上 卓也（視覚障害者ライフサポート機構 viwa）
4. 弱視で理系博士課程の学生やってます！—デジタルメディアの活用術
…吉田 裕司（視覚障害者ライフサポート機構 viwa）
5. メカ音痴的 ipad 活用術—メイク、子育て、結婚式、水族館 etc …視覚補助具としての可能性

…奈良 里沙（視覚障害者ライフサポート
機構 viwa）

今回の講演では、一般企業や学生など、20代～30代の比較的若い視覚障害当事者で設立された団体 viwa のメンバーを中心に講演をおこないました。当日は参加者全体の年齢層が若く、講演者と同世代のため、共感できる内容とともにどのような工夫をしているのか等、対応策の共有がおこなえたと感じております。

②バリアフリー図書や機器類の展示

会議室の壁に沿って、バリアフリー図書や用具の展示会をおこないました。

日常的に見る・触れる機会の少ない視覚障害者にとって、多種多様なバリアフリー図書・用具を実際に手にとっての体験は非常に有効であったと考えられます。

さらに、視覚障害学生への指導経験のある専門家等にご協力いただき、個別の相談コーナーを設置しました。その結果、当事者をはじめ実際に弱視の子供を持つ親・教育関係者からの相談を受けました。

実際に専門の相談員が対応可能な機会が不足しているため、本事業の開催は非常にありがたかったとの意見を得られました。

成果の広報、公表

「サイトワールド 2015」内での講演会を成果物として CD に収録しました。さらに、音源をもとに文字お越しをおこない、報告書兼資料として冊子を製作しました。製作の段階では、実際に体験会や相談で寄せられた声を踏まえて編集を進めました。冊子の完成後は、点字毎日新聞、JB ニュース（日本福祉放送）等の福祉関係マスコミに掲載していただき、成果物の広報活動をおこないました。併せて、福祉関係施設や盲学校をはじめとする教育機関に完成のお知らせを配布。その

後、希望する個人・団体へ配布をおこないました。また、当会発行の医学雑誌「鍼灸の世界 豊桜」への掲載や当会発行の季刊誌「桜雲会だより」において、成果物の広報とともに事業の報告をおこなう予定です。今回の講習会に参加いただけなかった方々へも、対応策や支援機器の存在など情報の共有をおこない、一人一人の自立生活を向上させていく事が目的です。

今後の展開

本事業でおこなった講習会をとおり、参加者の多くが不便さを感じている現状を打破したい気持ちを抱いており、アシスティブテクノロジーについて潜在的な興味を持つ人が多く存在している点を認識できたことは大きな収穫となりました。専門的な研修を受けなくとも、IT 機器や用具を応用することで、自身が感じる不便さを解消できる対応策として非常に有効であると考えられます。

一方、現状ではその対応策や支援機器の存在に対する情報の共有が不足しているが故に、相談できる人や窓口の不足等、今後も継続的な周知・普及活動が必要であると考えられます。そのため、当会主催のイベントや他団体のイベントにおいて、定期的な講習会の開催に取り組む予定です。昨年 9 月に、当会主催でおこなった最新の視覚障害者向け支援機器の展示会「さわるテクノロジー」を今年度も開催し、同イベント内でアシスティブテクノロジーの講習会をおこなう予定です。

そのため、当会主催のイベントや他団体のイベントにおいて、定期的な講習会の開催に取り組む予定です。昨年 9 月に、当会主催でおこなった最新の視覚障害者向け支援機器の展示会「さわるテクノロジー」を今年度も開催し、同イベント内でアシスティブテクノロジーの講習会をおこなう予定です。

その他、視覚障害者リハビリテーション研究発表大会など、参加者へのニーズが高いと感じられるイベントにおいて、講習会の開催を予定しています。